「18ヶ国語を習得したシュリーマンの外国語学習法を応用した英会話学習法」

監修:バイリンガルセンター

綱 島 校:横浜市港北区綱島西3-7-19 マリンビル2下

北山田校:横浜市都筑区北山田 2-11-2

シュリーマンは、トロヤの遺跡やミケネの遺跡を発見発掘したことで知られていますが、ビジネスマンでもあった彼は、18ヶ国語をマスターして、その言語能力を古代研究に役立てたことでも有名です。そして彼の古代研究の実現を可能にした富を彼に築かせたもの、それは18ヶ国語に及ぶ彼の外国語運用能力でした。

ここでは、「古代への情熱」(岩波文庫)と題されたシュリーマンの自伝から、彼の外国語学習法を抜粋して紹介します。彼の自伝は自伝そのものとして読んでも面白いですが、有効な外国語学習法としても大変参考になります。

シュリーマンの外国語学習法

1. 非常に多く音読すること。

シュリーマンの声高な暗誦は、隣人たちを悩まし、家主に苦情を 言われて、彼はロシア語の習得中に、2回住居を変えなければならな かったそうです。彼は外国語を学ぶ時、徹底して音読を繰り返しました。

2. 決して翻訳しないこと。

学習言語をいちいち母国語に翻訳して学習していては、18ヶ国語は習得できません。学習言語で理解し、考え、表現するのです。そのように言語を習得すると、話せる言語がどんなに増えても、それぞれの言語が混ざって混乱することはありません。

3. 毎日1時間学習すること。

彼はあらゆる瞬間を学習のために利用しました。ドイツ人であるシュリーマンは英語を習得するために英国教会の礼拝にいつも2回通い、 説教を聴いて、それを口真似したり、郵便局で待つ時間にも常に、学 習している言語で書かれた何かを読んでいました。

4. 常に興味ある対象について作文を書くこと。

彼は学習言語で、自らが関心のあるトピックについて書く努力をしました。

5. 自分の作文を教師の指導によって訂正すること。

彼は、教師を雇い、自分が書いた文章を必ず訂正してもらいました。

6. 前日に訂正された作文を暗記し、次のレッスンで暗誦すること。

教師により訂正された自分の文章を暗記し、その暗誦を人を雇っ て聞いてもらいました。

ドイツ人であるシュリーマンは、上記の学習法でまず最初に英語を 6ヶ月でマスターして、次に同じ方法で、フランス語をこれまた 6ヶ月 でマスターしました。そしてその後は、オランダ語・スペイン語・イタリア 語およびポルトガル語を、流暢に話し書くことが出来るようになるために、6 週間以上を必要としなかったそうです。

シュリーマンの外国語学習法を応用した英会話学習法

それでは上記のシュリーマンの学習法をより現代的に生かす方法 について、より具体的に解説し、効果的で実践的な学習法を提案した いと思います。

1. 非常に多く音読すること。

iPod 等、携帯の録音機を使って、何時でも何処でも学習言語を聞くことを奨めます。インターネット上に様々な教材が無料で溢れています。そして可能な場所では、音声教材の口真似(シャドーイング)をしたり、テキストを音読してください。そして暗誦してください。

2. 決して翻訳しないこと。

暗誦する作品は、内容を理解している自分が好きな作品を選んでください。映画なら、初級者は最初日本語字幕で観てもかまいません。次にスクリプトを音読します。そして内容を理解したら、字幕なしで映画を何度も観ます。自分が好きな作品なら、小説でも映画でも繰り返し味わうことが出来ます。ここでも好きなシーンや箇所は、そのまま登場人物になりきって暗誦してください。

3. 毎日1時間学習すること。

机に座って 1 時間勉強する必要はありません。通勤の電車内や、 料理・掃除をしながら聞いたり、読んだり、暗誦の練習をしたりします。

4. 常に興味ある対象について作文を書くこと。

基礎的な文法を学ぶ必要があります。日本人の教師に教わるか、 文法書を 1 冊仕上げてください。そして短くていいですから、毎日書くこと を習慣化しましょう。

5. 自分の作文を教師に添削して貰うこと。

教養のある良いネイティブ教師を見つけてください。そして自分が書い

た英文を添削してもらってください。

6. 前日に添削された作文を暗記し、次のレッスンで暗誦すること。

暗誦は作文を添削した教師の前でもいいですし、極端な話、家族の前でも構いません。あなたの暗誦を聞いてくれる誰かがおればいいのです。シュリーマンはロシア語を学んでいた時、教師が見つからなかったので、ロシア語を一言もわからないユダヤ人を週 4 フランで雇って、彼のロシア語の暗誦を聞かせたのです。

上記に挙げたことを 6 ヶ月間実行すれば、あなたも外国語を一つマスターできます。試してみてください。大切なことは楽しみながらやることです。

バイリンガルセンター 代表 祷 治満